

第二回 キラーロボットのない世界に向けた日本の役割を考える勉強会

日時：11月20日(火)午後5:00－6:30

場所：衆議院第1議員会館 地下1階 第5会議室

キラーロボット(殺傷ロボット)は、人間の介入・操作なしに攻撃目標を定め人を殺傷するAI兵器です。「自律型致死兵器システム(LAWS)」ともよばれます。まだ実戦投入されていませんが、米国・ロシア等十数カ国が開発中です。核兵器に次ぐ第三の兵器革命をもたらすと警告されるキラーロボット。そんなキラーロボットのない世界を目指し、実戦投入前に禁止条約を作ろうという国際的な動きが進んでいます。日本はどんな役割を果たすべきでしょうか？

この世界に「人を殺すロボット」はいらない！

第二回勉強会だよ！
世界の安全と未来を、一緒に考えよう



1. 開会の言葉と問題提起(公明党代表 衆議院議員山口那津男)
2. キラーロボット/LAWSの概要及び第一回勉強会の報告（主催NGOより）
3. 主催国会議員及び参加国会議員の発言
4. 外務省及び防衛省からLAWSに関する各省の見解
5. 市民社会及びAI・専門家からキラーロボット/LAWSに関する見解、政府への要望
6. 国会議員・政府・市民社会・専門家の4者によるディスカッション(モダレーター 衆議院議員 遠山清彦)
7. 閉会挨拶 (ヒューマン・ライツ・ナウ事務局長 伊藤和子)
【ディスカッション登壇予定】
市民社会：難民を助ける会理事長 長有紀枝、ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表 土井香苗
地雷廃絶日本キャンペーン代表理事 清水俊弘
専門家：脳科学者 茂木健一郎、慶應大学理工学部教授 栗原聰(汎用AI、群知能等)
拓殖大学教授 佐藤丙午(安全保障)他

主催(仮)：

○遠山清彦議員(公明党)、小野寺五典議員(自民党)、小林史明議員(自民党)、山内康一議員(立憲民主党)、小熊慎司議員(国民民主党)、遠藤敬議員(日本維新の会)
○認定NPO法人 難民を助ける会(AAR Japan)、国際人権NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ、認定NPO法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)、認定NPO法人ヒューマン・ライツ・ナウ(HRN)、特定非営利活動法人地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL) ※一般参加者歓迎、参加無料です。事前登録の上お越し下さい(定員制)